

自然賛歌

秋の七草

妹尾治人

秋の七草の歴史は古い。

今から一三〇〇年程前の奈良時代の『万葉集』の中に、山上憶良の歌として、次のように詠われている。

秋の野に 咲きたる花を指折り

かき数ふれば 七草の花

萩の花 尾花 葛花 撫子の花

女郎花 また藤袴 朝顔の花

この歌の中で「朝顔の花」とあるが、奈良時代には、現代の朝顔は まだなかったものでそれは「桔梗」のことだと言われている。

秋の七草を語呂よく三十一文字にまとめてみた。そして七草それぞれの名前の由来や特徴を調べてみた。

女郎花 桔梗 撫子 藤袴

萩 葛 薄 これぞ七草

(萩 尾花 くず 女郎花 藤袴)

桔梗 なでしこ 秋の七草)

昔の和歌あり

◇オミナエシ…若い女性を意味する。オミナエシ科植物で多年草。

◇キキョウ…漢名で桔梗(根が肥大して大きいさま)がキキョウに転化した。キキョウ科の植物で多年草。太い根にはサポニンの成分があり、咳止めの薬にされる。

◇ナデシコ…秋の七草でいうナデシコは、河原ナデシコで、美しく咲く姿から、撫で慈しむ意味である。多年草、ナデシコ科。

◇フジバカマ…中国から薬用として伝来したもので、キク科の多年草。関東以西では、たまに野性化したものを見かけるが極めて少ない。

◇ハギ…生え芽といって、若い芽が元気に伸びることから付けられた名前。ハギはマメ科で草のものと、木のものとがあるが、秋の七草のハギは、山ハギと言われている。

◇クズ…マメ科の蔓植物。奈良県吉野の国栖の地名からつけられた名前。漢方薬の葛根湯の原料。根から澱粉(くず粉)をとる。

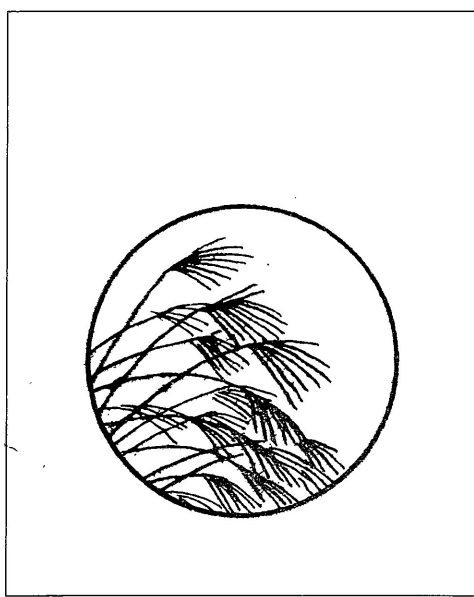
◇スズキ…すくすくと立つ草の意味。花の種を尾花という。イネ科の多年草。以上七種のうち、始めの四種類は近年少なくなってきた。なかでも藤袴はほとんど見ることがない。

平成三年から平成六年にかけて、廿日市の生物調査が行われたが、藤袴は見つかっていない。後の三種類は、今でも普通によく見られる。

藤袴がどこかにないものかと、探していたら園芸店で販売していた。それを専門家の関太郎先生に見てもらったら「藤袴ではあるが園芸品種である」とのご託宣にがっかり。

どうしても本物が見たいと思い、網を張っていたら「上下町吉森にある」と聞き、昨年五月、早速一芽を頂いて只今わが家で栽培中。

園芸種と並べて畑に植えて、観察しているが、葉の色や切れ込みが違う。二年目の今年は六本にまで増えた。来春は株分けが出来るとひとり喜んでい



七草のうち、特に藤袴が少なくなったが、全く消滅したわけではない。長い歴史のある秋の七草を、大事に守って行きたいものである。

“万葉の秋の七草とこしえに” (自然観察指導員)